

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392800039		
法人名	医療法人十喜会		
事業所名	グループホーム向陽 A		
所在地	愛知県碧南市中山町6丁目10番地		
自己評価作成日	平成28年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihonmei&kyousyoCd=2392800039-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成27年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は医療法人であり、病院、老人保健施設、デイサービス、居宅介護支援事業所を有しております。本人や家族が望めば、責任を持って最後までお世話させていただきます。安心してグループホームに入居して頂きたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の人々が信頼を寄せる病院を中核とする医療法人が母体であり、管理者は看護師である。老健・居宅介護支援事業所も抱え、ホームは併設するデイサービスとドア一枚でつながっている。そのためホームで入浴が困難な場合などチェアのまま入れるデイのお風呂を利用することもある。「看取りまでお世話します」を標榜し、希望を聞いたところ6軒ほどの家族が「医療の必要がなく、老衰で静かに送れるなら、このホームでお願いしたい」との声が寄せられ、市民病院から「看取り認定看護師」を招いて看取りの勉強会を開いた。入居前から家族は「もし医療が必要となってもここなら病院でお世話してもらえる。」と、それがこのホームを選ぶ大きな要素となっている。法人代表である医師は毎週水曜日に往診の帰りに必ず立ち寄り、入居者すべての健康状態を把握し、また看護師である管理者との連携で即座に医療につなげる態勢がとられ、家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念「本人の意思と家族の思いを十分に尊重する施設」を基に本人のやりたい事をできる限り行うようにしている	「本人の意思と家族の思いを十分に尊重する施設」という理念は、グループの老健の理念を反映したものである。「看取りまでお世話させていただきます」を掲げ、家族アンケートから「医療の必要がなければホームで看取りたい」という要望があり、看取りの勉強会を開いた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。去年は盆踊りに参加。当事業所の秋祭りには近所の方を招待。去年より始めた地域交流会(ピアノ伴奏で歌を歌う)不定期だが継続している。中学生職場体験の受け入れあり。日常的交流は難しい。	町内会に加入し、盆踊りには6人程の入居者も参加した。ホームの秋祭りにはご近所もお誘いした。毎年中学校の職場体験を受け入れている。ホーム主催の地域交流会では、ピアノの伴奏に合わせてみんなで歌う活動を不定期だが開催し、地域の高齢者・独居老人を招いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出入りの業者さんの話を継続的に聞いていた。デイに通えるようにまでなった。市役所主催だが、地域ケア会議に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で家族に職員の異動、研修等の報告をし、家族からの意見要望を職員に伝えている。管理者が迷った事など、家族にどう思うか尋ね参考にさせてもらう事がある。(1階と2階の外出内容の違いなど)	法人代表である医師・入居者及び家族・民生委員・出入り業者・職員・地域包括職員・ユニットリーダーが運営推進が意義のメンバーとなり、積極的な意見交換があり有効に活用されている。地域交流会開催及び地域への周知を、会議で民生委員に依頼し成功に導いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度運営推進会議の議事録を提出す時、お互いの情報交換の場としている。	地域の独居高齢者・認知症高齢者を、地域で見守るための、市主催の地域ケア会議に参加し、民生委員・地域介護事業者・町内会・老人会と連絡を密に取り合い、地域の受け皿として活躍している。ホーム主催で地域対象の認知症サポーター養成講座を企画している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所の勉強会(H27年4月)にて、具体的な行為を周知している。日中は玄関の施設はしていない。離設されてしまうこともあるが、だから施設しようとはならない。言葉の拘束にも注意している。	27年4月に拘束について勉強会を実施している。老健からの異動も多く、経験の浅いスタッフには「本人が何をしたかったのか、五感をフル活動して感じ取りなさい」と指導している。家族からも「玄関が施設されていなくて開放感があったととてもいい」と評判である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当事業所での勉強会H27年4月に行っている。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8				○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所で勉強会をしているが、前回から1年以上経っているため、そのそろ行わなくてはならない。		
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に支払と退居時の居室修理費、運営方針等は説明をしている。		
10	(6)			○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議や家族の会や常々の話の中で家族より要望など聞くようにしている。	玄関は二つあるがあえて一方を閉鎖し、管理者の前を通らないと帰れないようにしている。そのチャンスを逃さず、管理者は家族に近況報告し、ケアへの要望・プラン見直しの意見を聴取している。家族からも「買い物に連れて行ってもらえるのでうれしい」と好評である。	
11	(7)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低月1回のミーティングを設けており、気軽に意見が言える環境をつくっている。職員の意見を当法人の運営会議に持っていく仕組みになっている。	日常のケアの疑問・気づきはユニットリーダー・管理者に直接確認している。気づきのうちプラン変更につながる場合は、月一回のミーティングで衆知を集め、見直している。「入居者の下着がぼろぼろになってきました」などの報告は管理者から家族に伝えられている。	
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(医師)は毎週水曜日来設する為、直接管理者や職員は話ができる環境である。		
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月1回勉強会がある。当事業所内で与えられたテーマに対し自ら調べまとめたものを、ミーティングの前に発表する機会を設けている。外部研修には希望すれば、勉強する機会がある。		
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム連絡協議会に加入して、市外の事業所とも勉強会などで交流している。市内に4事業所があり、当事業所の秋祭りに招待したり、ボランティアを紹介して繋がりを持っている。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15				○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で好きな食べのものを聞き入居日の献立に取り入れ、本人の不安を少しでも取り除く。本人の隣で食事をしたり、お茶を飲んだり寄り添うようにしている。		
16				○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人の性格や好きだった事等家族より聞き取る。家族にここに入ること心配な事を聞き対応していく。家族も始めは緊張されている為、コミュニケーションを密に取るようにしている。		
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の心配ごとへの対応考え、入居して頂いたのだから家族が安心してもらえるように、また場所が変わり本人の不安軽減に対応する。		
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物、掃除、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、鯉の餌やり、植木の水やり、草取りなどで助けあえる環境をつくっているが、最近ではできる人が決まってしまう。		
19				○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お祭り、忘年会、盆踊り、初詣など行事の参加も家族の役割とと思って参加してもらっている。		
20	(8)			○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーに出掛け、知人にあたりすることはよくある。友人や親せきが気軽に訪ねて来てくれるよう、家族にもお願いしている。	近所から入居して人が多いので、買い物に同行していると「〇〇さん」と呼び掛けられ、名前は思い出せないながら会話が弾むことも日常的にある。友人が訪ねてくることもある。「昔お世話になったのですが、ここに入居されたと聞いて。」と蘭を持参した方もあった。	
21				○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が上手く関わられるよう間に入りたりしている。気の合わない人もいる為テーブルの座る位置には十分注意して見守っている。		

己 自部 外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し、退去された方でも職員が見舞う。又管理者はグループホームでの生活や家族の思いを入院した先の看護師や相談員に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の話の中で本人の思いを感じ取ったり、本人と話し合いながらケアを行っている。不十分な点は家族より聞き取り、本人本位に行っている。認知症が進んでくるとなかなか難しい点が多い。	初回のアセスメントでは、普通の話の中から本人の生活歴・趣味・特技・日常の流れ・既往歴などさりげなく聞きだし、フェイスシートに落とし込んでいる。管理者は常に「じっと目を見て嫌がってるなどか、興味がなくなるとか汲み取る力をつけるように」と指導している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞いたり、カルテを見たり情報収集するよう努めている。又他の職員と共有している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りで、いつもと違う様子などを伝えている。又月1回、カンファレンスで本人の状態を共有し合っている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新は、職員皆で話し合いながらモニタリングを行いケアプランに役立てている。6ヶ月に1度だが、変化あればその都度ケアプランを変更している。	ユニットリーダーが中心となって、6か月に一度見直しをしている。目標達成計画に掲げた「時間を持て余している人向けのレク対策」では担当した職員が認知症とレクの効用・昼夜逆転解消の解消方法としてのレク、具体的な塗り絵・計算・パズルなどの例を10分勉強会で発表し、レジュメも回覧に回されている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化や気づきがあれば、カルテや申し送りノートに記入し、情報を共有している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を可能な限り叶えられるよう、前向きに検討している。		

己 自部 外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ある方は家にいる頃から散歩が好きでいろんな所を歩いていた。今でも自由に施設の周りを散歩され、商店の方々が見守ってくれている。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族が納得するところとしているが、最近では当法人の病院が多い。	母体である病院から毎週医師が往診に訪れている。これまでのかかりつけ医にかかっている利用者もご家族の協力を得て通院しているケースもある。母体が医療機関、管理者が看護師であり、医療面で安心感がある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化あれば看護師である管理者に報告し、受診につなげている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先が市民病院や法人内の病院の為横のつながりは出来ており、支障はない。市民病院から退院調整会議に声がかかると、管理者、職員が出席する。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前に行き場がない白血病の方を最期まで看させてもらった経験がある。運営推進会議で家族に尋ねた時、老衰だったら、ここで最期までお願いしたいとの声が多かった。家族の意向に沿っていきたいと思った。	母体が医療機関であることから、通常医療依存度が高くなってきた場合はご家族の意志を確認しながら母体である医療機関に繋げることが多いが、家族の希望を把握し、常に話し合いながら終末期について対応している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、夜間等の事故対応には不安はある。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、地震時の簡単なマニュアルはあるが、夜間帯夜勤者は不安が大きい。年4回の避難訓練を実施。近所の方を巻き込んだ訓練はしていないが、協力お願いはしてある。	隣接のデイサービスと合同で避難訓練を実施している他、管理者が抜き打ちで避難訓練を実施し、いざという時の対応力を養う努力をしている。訓練の際には消防署職員にも来てもらい、防災に関するアドバイスをもらっている。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し対応しているが、たまに気分を損ねてしまうような言葉がけをする職員もいる。	一人ひとりにあった対応をしたいと心がけているものの、やはり経験の浅い職員などではできない場合もあり、都度話をして指導している。トイレ誘導や介助の際など、羞恥心への配慮について特に気を遣っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや飲み物、レクリエーションの参加など小さなことでも選択できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本本人の生活リズムを大切にしている。お部屋に入ったり出たり、早く就寝したり、遅い時間まで起きていたり。しかし時に全体的な生活リズムになってしまう時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人に服を選んでもらったり、化粧水や乳液を付けたい人。爪の手入れでマニキュアをする方もいるが、その人らしさがいまひとつ分からず、おしゃれができていないといえないことも方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットで献立が違う。献立を立てる際、入居者に希望を聞きなるべく取り入れるようしている。準備や片づけなど、能力に合わせて行ってもらっているが、手伝える人が決まってしまうことがある。	利用者の意見も聞きながらユニットごと献立を考え手作りしている。毎日近所のスーパーへ買い物に行き、利用者も同行して手伝ってもらっている。外食に行くこともあり、喫茶店の他回転寿司も利用している。ご家族の協力も得て個別に外食に連れ出してもらうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛りつける量を個々にかえているはしている。栄養面は肉魚に偏らず、前後のメニューでバランスを考えている。水分が足りないような方には、ペットボトルを渡し、いつでも少しずつ飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後の口腔ケアのみ全員しているが、後は人それぞれで、毎食後自分で入れ歯を洗浄する人、うがいのみされる方、能力に応じ支援している。以前口臭が気になる方がいたので、気をつけてはいる。		

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員の方が排泄は基本トイレで行う。尿意の訴えがなく尿失禁が多い方は、ご飯、入浴、寝る前など声をかけてトイレに行く機会を促している。車椅子の方でも本人の行動でトイレがわかる。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、基本的にはトイレで排泄できるように配慮している。オムツを使うことを極力避けているため夜間はどうしても失禁してしまうこともあるが、それも仕方ないと考え、次に繋がるよう検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝食にヤクルトを飲んでいる。運動もラジオ体操や掃除など取り入れている。排便管理が必要な方は行っているが、下剤を飲む方はほとんどない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本毎日入れる状況。本人の希望する時間となると、人員配置の関係上希望どおりとはなっていない。ゆっくり入ってもらえるように心がけている。現在入浴を断り続け、3ヶ月が経とうとしている方がいる。	2日に1回は入浴できるようにしているが、入浴がお好きな方は混み合わない時間帯に長風呂を楽しんでいただけたこともある。個浴であるが隣接のデイサービスにはスロープのある浴室もあり、状態によっては利用することもできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でしっかりお昼寝される方ソファでうとうとされる方、好きな場所で休息されています。希望により眠剤を飲まれている方がひとりいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬なのかは把握できるようにしている。服用を断られる場合があるが、その人にとって重要なものは極力飲んでもらうようにしている。副作用までは理解していない職員は多い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな事を把握し、生活に取り入れているよう心がけている。散歩、将棋、歌、成人向け雑誌、コーヒーが好きな方など。夜中目が覚めたときに、小腹がすき、お菓子を食べる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お菓子を買に行ったり、喫茶店に行ったりしている。普段行けないところへは、年間行事として外出する。家族と一緒に外食、お墓参りや床屋に行かれる方もいる。本人の希望に沿っているかといわれると、なかなかできていな点はある。	外出は楽しみの一つなので積極的に取り組んでいる。イチゴ狩りや花菖蒲を見に行くなど、季節を感じることでできる外出を取り入れることが多い。日常的には毎日スーパーへの買い出しや、天気によっては散歩に出かけている。	

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50				○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持って出かけるが、買って帰る方があまりいない。食べることに満ち足りているんだろうか。		
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけるのは職員だか、本人が希望すれば、息子や娘と電話で話ができる。実際 家族に電話をかけ話をする機会は少ない。		
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開けたり、換気扇をつけたり、空気の入替えや臭いを除去。2階は西日が入りすぎるので早目にカーテンを引くなど配慮している。お雛さん、五月人形、季節にあった、花や飾りをしている。	他のグループホームと比較して群を抜いた敷地の広さに驚かされる。リビングもとても広いが、ソファ等の配置が考えられており居心地が良い空間が演出されている。小上がりの広い和室もあるが現在は利用者がつかうことはあまり無い。換気や湿度管理を気をつけている。	
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを所々に置き、居心地の良いところで過ごせるよう環境を整えている。		
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるタンスや椅子、鏡台など配置についても家族にお願いしている。本人の好きな花や人形、写真などを飾っている。	ご家族に協力してもらい使い慣れた馴染みの家具などを持ち込んでもらっている。各部屋に洗面台が備え付けてある点も他のグループホームには無いところである。畳を持ち込んで布団で寝ている利用者もいる。	
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から居室までバリアフリーになっており、手すりも長く設置されている。トイレも広く車椅子の方でも楽に入れる。杖・シルバーカー・歩行器など個々に合った歩行補助具を使用して自由に移動してもらっている。		